

竹本成徳元日生協会長をお招きし 記念講演が開催されました

『さいごのトマト』～ヒロシマを、わたし自身の「ことば」で～



講師の竹本元日生協会長

6月23日、道連通常総会の終了後、同会場（ホテルポールスター札幌）で北海道ユニセフ協会・コープさっぽろ助け合いの会・原水

禁道協議会などの方々を含む65名が参加し記念講演会『さいごのトマト』が開催されました。

今年2月に麻田会長・河原さっぽろ高齢者生協理事長などの道連訪問団が神戸の賀川記念館（＝館長は賀川豊彦のお孫さん）を学習に訪れた際に、わざわざ北海道から来たということで大層、感激・歓待して戴きました。その際に会長より招待の申し出がされ、今回の企画実現となりました。講師の竹本成徳氏は日本生協連がコープさっぽろの全国支援を決断した当時の会長であり、北海道の生協運動と深い縁があります。

竹本氏は中学2年生のとき、ヒロシマの中心部で多くの学友と共に被曝されました。爆心地から1k圏内での生存率は1%未満だそうです。DVDでの映像を含め、身振り手振りを交えて80歳の年齢を感じさせないお話は、極限状態での悲惨な光景の実体験であるだけに、迫力あふれる「奇跡の語り部」としてのものです。「トマト」に象徴されるお父さんから氏の姉へ

の「さいご」は、「戦争というおろかなことを繰り返さない」と氏から姉に約束させました。

竹本氏はコープこうべ理事長として阪神淡路大震災を「2度目の地獄」として体験、陣頭指揮をとられました。また今年3月の東日本大震災は「3度目の地獄」だとし心を痛めている旨、触れられるとともに、重ねて平和の大切さを訴えておられました。

きしくも、沖縄慰霊の日開催された本講演を受け、生協のスローガン「よりよい生活と平和のために」を参加者一同、胸に刻んだひとときとなりました。

尚、昨年再出版された著書「さいごのトマト」30冊（署名入り）は完売でした。



悲惨なヒロシマの被曝体験を語られ、平和の尊さを強く訴えられました



著書販売コーナー『さいごのトマト』

今後の活動予定

- 8/4(木) 第2回道連理事会(全労済北海道会館)
- 8/10(水)～11(木) 第2回コープさっぽろ農業賞現地審査
- 8/18(木) 第1回道連見直し検討会(全労済北海道会館)
- 8/19(金) 日生協地連実務者会議(コープさっぽろ会議室)
- 9/28(水) 日生協地連運営委員会(仙台市)
- 10/6(木) 第3回道連理事会
- 10/6(木) 国際協同組合年プレ北海道集会(ホテルポールスター札幌)
- 10/21(金) 第1回監事会

生協の基本理念を基に事業展開と事業継続に努力していきます

22回目の通常総代会を開催

北海道電力生活協同組合の「2011年度通常総代会」を6月9日（木）、東京ドームホテル札幌で開催しました。

今総代会出席者数は総代定数120名中、出席総代110名、委任状出席1名でした。

議案は、「2010年度事業報告、決算報告、監査報告に関する件」、「2010年度剰余金処分に関する件」、「2011年度事業計画および収支予算に関する件」、「役員報酬額に関する件」等、全8議案を提案・審議し、全議案とも承認されました。第8号議案の役員補充では、理事3名、監事1名の役員交代が承認されました。

また、当生協は「相互扶助」の精神に基づき、組合員の文化的・経済的向上を図ることを基本理念に、平成元年12月に事業を開始し今年で22年目を迎えることとなりました。この間、物資供給から始まり、共済・保険と事業の拡大を図り、取扱高も順調に推移してきております。今後とも役職員一同、基本理念に基づき



総代110名が出席し、全議案が承認された2011年度通常総代会

組合員の生活の一助をなすべく組合員ニーズにあった事業展開と、30年、40年と安定した事業継続に向けて努力していく所存です。

さっぽろ高齢者福祉生協

南郷通6丁目に新しいホームを建設します

～コープさっぽろと事業提携の協定を結びました～



第6回通常総会で挨拶をする河原理事長

6月18日、第6回通常総会を札幌市社会福祉総合センターにて開催しました。創業以来4年半の結果、初期2年の欠損を克服し相応の税金を支払うようになりました。3番目のホームの建設方針も固まって南郷通6丁目の約1,000坪の土地に来年10月開業を目指して準備を進めていきます。「サービス付き高齢者住宅」の先駆的モデル作りと位置づけており、ホーム入居者に限定しない、この地域の高齢者福祉センターとしてハブ機能を果せることを目指し、高齢者の健康増進、ADL維持、向上を目指して在宅の高齢者にとっても役に立つホームとしての諸機能を持つ施設とします。

このような時期にコープさっぽろとの間で『事業提

携に関する協定』が結ばれました。内容はコープさっぽろの空白地域に福祉生協がホーム建設をする際には1階はコープさっぽろの店舗、2階から上がホームにしよう。入居者の日常生活用品、食事の原材料の供給をコープさっぽろから受け“よりよいものをより安く”を実現し、コープさっぽろの配食の配達をホームの職員が担当し、配達を受ける高齢者の安否確認はもとより、心身の変化を読み取り福祉の担当部署に報告し必要なアクションを発動できるようにしよう。コープさっぽろの旅行・共済・葬祭事業へ福祉生協組合員の利用を推奨しよう。さっぽろの「助け合いの会」により福祉生協組合員(高齢者)の生活サポートに協力しよう。相互に組合員への広報活動を通して利用者の拡充に努めようというものです。北海道の生協の皆さん、どうぞ見守って下さい。



7月16日、恒例の「夏祭り」で、職員と職員
の家族による「南京玉すだれ」の様です